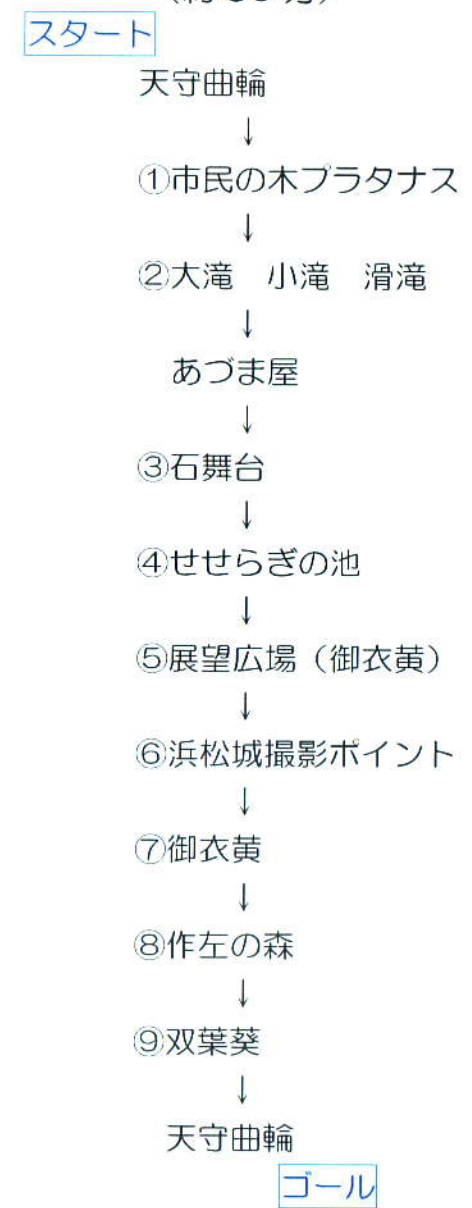


浜松城公園ミニウォークMap



浜松城公園ミニウォークコース (約30分)



(※裏面の説明をご覧ください。)

浜松城公園ミニウォーク みどころ紹介

①「市民の木」プラタナス

昭和4年、浜松最初の街路樹として、46本のプラタナスが鍛冶町通りに植えられた。昭和20年6月18日の浜松大空襲で市街地の大半が焼失、一面焼野原となり、この時全てのプラタナスも消失した。しかし、3本のプラタナスが奇跡的に復活し、その生命力の強さは浜松市民を勇気づけた。

旧松菱前交差点道路の中央に緑の葉を広げた3本のプラタナスは大切に保護され、昭和39年戦災復興の記念木「市民の木」と命名された。現在はJR浜松駅北口広場、緑化推進センター（飯田）と、ここ浜松城公園に移され元気に大きな葉を茂らせている。

②大滝 小滝 滑滝

大滝は浜松城公園内、日本庭園の中心といえる。大滝と滑滝は対をなし、雄大さと優しさを持たせて剛毅な中にも花を愛する戦国武将の心情が表されている。（庭園内説明文より）

③石舞台

昭和25年、浜松市立動物園が開園した時、象舎があったところ。当時象の「浜子」は子供たちの人気者だった。最近では「薪能」の舞台として使用された。

④せせらぎの池

近年、「かるがも」が住みつきひなを育てている。平成21年には3組の親子が見られ、訪れる人も多かった。

⑤展望広場

浜松城公園の桜の名所のひとつ、一角には御衣黄（ぎょいこう・緑色の桜）も見られる。

⑥浜松城撮影ポイント

浜松城を北から望める。絶好の撮影ポイントである。

⑦御衣黄(ぎょいこう)

ソメイヨシノより遅れて4月中旬頃より咲き始める。緑の桜と呼ばれるが、やがて黄、ピンクと色を変えしまいにはボトリと落ちる。展望広場に2～3本育っている。

⑧作左の森

本多作左衛門重次は家康家臣の中でも剛毅、勇猛な武将で三河三奉行の一人。「鬼作左」と呼ばれた。後年、家康上洛の際、秀吉が送り込んだ母・大政所の岡崎の御殿に薪を積み上げ万一に備えたことから秀吉に疎まれ、秀吉に遠慮した家康に冷遇される。秀吉なき後、家康はその嫡男成重を越前丸岡城主4万石

とし、作左の苦勞に報いている。日本一短い手紙に「一筆啓上火の用心 お仙泣かすな馬肥やせ」は作左が戦陣より出した手紙で、お仙が後の成重である。家康の命により作左は浜松城北の守りとして曲輪を築いた。「作左曲輪」と呼ばれた。

⑨双葉葵

三河の加茂郡松平郷は京都上賀茂神社の神領であった。家康の初代松平親氏は上賀茂神社の神紋「葵紋」を模したとしたといわれ、双葉葵を三枚に凶案化し、「三つ葉葵」紋が生まれたという。家康はこの松平家九代目になる。ちなみに上賀茂神社の祭事が京都葵祭りである。

・中央芝生広場

江ノ島プールができる前、市営プールがあったところ。競泳用50mプール、高飛び込みプール、子供プールを併設した公式プールであった。昭和32年静岡県が開いた最初の国体水泳競技の会場となった。現在、薪能の舞台としても使用されている。